

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520052

研究課題名（和文） 中世インド・ネパールの梵語仏教文献の研究

研究課題名（英文） A Study of Sanskrit buddhist literature in the medieval period of India and Nepal

研究代表者

岡野 潔 (OKANO KIYOSHI)

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号：80221844

研究成果の概要（和文）：

四年の研究期間に学術誌に発表した成果は次の通りである。梵文『大いなる帰滅の物語』（Mahāsaṃvartanīkathā）の第4章2節～4節、第5章1節、第6章1節～4節の和訳・研究を行った。またMSKのテキスト全体の詳細な内容梗概を英文で発表した。また『菩薩の過去世物語の如意蔓』（Bodhisattvāvadānakalpalatā）の第50, 55, 76, 77, 91, 92, 94, 95, 96, 97章の、合計10の章の梵文ならびにチベット訳テキストの校定と和訳を発表した。また『善説の大宝珠の過去世物語の花鬘』（Subhāṣitamahāratnāvadānamālā）の第23, 31, 33章の梵文の校定と翻訳を行い、さらに内容的に相当するアヴァダーナ・シャタカの章の和訳を行って両者の比較をした。

研究成果の概要（英文）：

During the term of 4 years of research (from April, 2007 to March, 2011) I edited and translated into Japanese the following sanskrit texts (and the tibetan texts, if necessary) in my papers: Chapters 50, 55, 77, 78, 91, 92, 94, 95, 96, 97 of Kṣemendra's Bodhisattvāvadānakalpalatā, and Chapters 23 (Yaśomitrāvadāna), 31 (Śreṣṭhino 'avadāna) and 33 (Śreṣṭhipretībhūtāvadāna) of the Subhāṣitamahāratnāvadānamālā. Besides, for 4 years I published Japanese translations of following texts: Sections of 4-2, 4-3, 4-4, 5-1, 6-1, 6-2, 6-3, 6-4 of the Mahāsaṃvartanīkathā (a cosmological treatise of the Sāṃmitīya school), Chapters of 48 (Śreṣṭhin), 85 (Yaśomitra) of the Avadānaśataka, and Tales of 125 (Śibi), 126 (Śibi) of the Karmaśataka.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	600,000	180,000	780,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：インド仏教学

科研費の分科・細目：[分科] 哲学、[細目] 印度哲学・仏教学

キーワード：仏教学

1. 研究開始当初の背景

中世のインド・ネパールの梵語仏教文献の領域において、私は特に三つの梵語文献を選んで研究を進めていたが、本研究課題の開始当初の研究状況は次のようなものであった。

(1) 12世紀東インドの正量部宇宙論文献『大いなる帰滅の物語』(略号MSK)の研究は私が先鞭をつけ、世界の学界で私以外にしている者はいなかった。2007年4月の時点では、第1章1節～3節、第2章1節～第4章1節、第5章2節～4節の部分に対する私の和訳・研究が『哲学年報』誌上で発表されていたが、第1章4節、第4章2節～4節、第5章1節、第6章1節～4節の部分がなされていなかった。従ってこれらの未発表の部分の和訳・研究が喫緊の課題であった。

(2) 11世紀カシュミールの仏教説話文献『菩薩の過去世物語の如意蔓』(略号BAKL)の研究は、私のドイツの恩師 Michael Hahn 博士の勧めにより、博士の弟子の Martin Straube と章を分担して、梵文と蔵訳のテキスト校定を進める計画が立てられた。2006年にまず私は第50章の校定から取りかかったが、Straube は第64章の校定を行った。

(3) 中世ネパールのアヴァダーナマーラー文献『善説の大宝珠の過去世物語の花鬘』(略号SMRAM)の研究は、私が『南アジア古典学』1号(2006年7月)に発表した論文により、世界で初めて開始された。SMRAMのネパール梵文写本は比較的誤りが少ない写本であることが判明したため、この写本を底本にして、学界未知のテキストの校定を行う計画を立てた。

2. 研究の目的

本研究課題は4年間で三つのテキスト研究を同時並行的に次のように行う：

(1) 『大いなる帰滅の物語』(MSK)の研究では、私自身による梵文の校定テキストに基づき、未だ和訳が出ていない部分に対して学界で初めての和訳を進めてゆき、翻訳においては出来るだけ詳細な注をつける。またパーリ文『ローカパンニャッティ』や『文献X』(蔵訳『有為無為決択』第8章の中の題名不明の正量部の宇宙論文献)の相当箇所和訳もあわせて行う。

(2) 『菩薩の過去世物語の如意蔓』(BAKL)の研究においては、梵文と蔵訳の校定本が未だ出ていない章に対しては、梵文は3本の写本に基づき、また蔵訳は5本の版に基づき、世界で最初の校定を行う。解釈が難しいテキストなので、校定においては必ず翻訳も示す。

(3) 『善説の大宝珠の過去世物語の花鬘』(SMRAM)の研究においては、世界に一本しかないSMRAM梵文の写本と、数本見つかっているRatnāvadhānatattvaの梵文写本に基づき、世界で最初の校定を進める。また関連する『アヴァダーナ・シャタカ』や別のアヴァダーナ・マーラー文献の研究を同時に行う。

3. 研究の方法

上記の三つのテキストについて、それぞれネパール梵文写本を出来る限り集めて写本に基づいてテキストの校定を行うことを、研究の出発点とする。校定が終わったテキストに対してはできるだけ原文に忠実な翻訳を行い、また類似の並行文献をあわせて校定し翻訳して、綿密に比較するという方法を取る。

4. 研究成果

4年の研究期間におけるこれら三つのテキストの研究成果は次のとおりである。

(1) 『大いなる帰滅の物語』(MSK)の研究

①19年度にはMSKの第4章第2節～第4節を翻訳し、詳細な注をつけ、さらにパーリ文『ローカパンニャッティ』（漢訳の立世阿毘曇論に相当する文献）の、それに対応する部分を翻訳した。[→下記の雑誌論文⑨] この論文によって正量部の終末観の具体的な記述の箇所が翻訳された。正量部はまもなく現在の世界が滅びの日を迎えると信じ、三種のカタストロフ（小三災）の到来を重視する終末観を有したことが明らかになった。

②20年度にはMSKの第5章第1節を翻訳し、さらにパーリ文『ローカパンニャッティ』の、それに対応する部分を翻訳した。翻訳に対しては詳細な部派仏教諸部派の宇宙論に関する解説が詳細な注として付けられた。[→下記の雑誌論文⑦]

同年度にさらに印度学宗教学会『論集』第34号にこのMSKと弥勒下生経との関係を論じた論文が発表された。[→下記の雑誌論文⑩]

③21年度にはMSKのテキスト全体の詳細な内容梗概を、ドイツのIndica et Tibetica叢書の一冊であるパーサーディカ比丘記念論集に英文論文として発表した。[→下記の雑誌論文⑤]

④22年度にはMSK最終章（第6章）全部の翻訳と研究を発表した。この論文により、MSKの最重要の最終部分の和訳がなされ、並行文献である文献Xならびに『ローカパンニャッティ』の相当箇所も翻訳されて、詳細な注が付けられた。[→下記の雑誌論文①]

以上、MSKに関して研究期間の四年間、毎年論文を発表することが出来た。

⑤国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけと今後の展望

MSKは新発見のインド正量部の独自の宇宙論文献として、世界中のインド学・仏教学の学界で注目されつつあるが、現時点でMSKのテキスト研究を進めているのは全世界で私一人である。これまで発表したすべての論文が、

MSKの研究において最も重要な、校定・翻訳・並行文献との比較という、土台形成的な仕事である。

今後の展望としては、MSKのテキストはほぼ主要部分の和訳の発表が終わり、和訳の未発表部分は一つのパート（第1章4節）を残すのみとなっているため、23年度に『哲学年報』第71輯にそのパートの研究を発表する予定である。

MSKの全章の和訳完成後に、正量部の宇宙論の内容を再度まとめつつ、特にその独特の終末論をインド文化とインド仏教の全体の流れの中に位置づける必要がある。

（2）『菩薩の過去世物語の如意蔓』（BAKL）の研究

①19年度にはBAKL第50章『十の業の連繫』の梵文と蔵訳のテキスト校定ならびに和訳を発表した。[→下記の雑誌論文⑪]

またこの第50章の内容研究として、アナヴァタプタ・ガーター（『無熱惱池偈頌』）というテキストを中心に有部やパーリ上座部などの部派の伝承における仏陀の業の残滓の問題を論じた論文を印度学宗教学会『論集』第33号に発表した（この33号は発行日が2006年12月になっているが、実際には2007年8月に発行された）。

②20年度にはBAKLの第55章『一切施 [王]』と第91章『シビ [王] の善説』と第92章『マイトラカンヤカ』の校訂ならびに翻訳を行った。またこのBAKLの三つの章の梵文と蔵文の校訂と翻訳に加えて、『カルマ・シャタカ』の第125話「シビ王」と126話「シビ王」の蔵文テキストの全文の和訳もあわせて行ったため、論文は約100頁におよぶ長いものとなった。[→下記の雑誌論文⑧]

③21年度にはBAKLの第94章『ヤショーミトラ比丘』、第95章『雌虎』、第96章『象』と、

第97章『亀』の四つの章の梵文と蔵文の校訂ならびに翻訳を行った。〔→下記の雑誌論文⑥〕

さらに別の論文として、BAKL第50章『十の業の連繫』の内容と密接にかかわる初期大乘経典『大乘方便経』の「十の業の連繫」に関する研究を発表した。〔→下記の雑誌論文④〕

④22年度にはさらにBAKLの校定作業を進め、第76章 Vidura と第77章 Kaineyaka の二つの章の梵文と蔵訳の校定ならびに翻訳を行い、『南アジア古典学』第5号の論文の第一部(51-78頁)に発表した。〔→下記の雑誌論文③〕

また昨年に続き、『大乘方便経』の「十の業の連繫」に関する論文を発表した。〔→下記の雑誌論文②〕

以上、4年間で本研究課題の申請時の予定以上に大きく校定と翻訳を進展させることが出来た。

⑤国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけと今後の展望

梵文と蔵文の厳密な校訂が初めて日本でこれらの章に対して行われた意味は大きい。日本におけるこれまでのBAKLの諸章の研究は、梵文と蔵文の校訂を十分に行わないで、和訳することを主な目的とするものであった。私の梵文と蔵文の校訂作業は、ドイツのMartin Straube 等の学者により世界で行われつつあるBAKLのテキスト校定の仕事の一翼を担うものである。

今後の展望としては、BAKL第78章『シャクラの死没』と第79章『マヘンドラセーナ王』の校訂テキストと訳を『南アジア古典学』第6号(2011年7月発行)に掲載する予定である。その後も、第80章から第84章までを毎年校定して発表してゆく予定である。

(3) 『善説の大宝珠の過去世物語の花鬘』(SMRAM)の研究

①19年度～20年度に、SMRAM第23章と第30章と第31章の校定の準備を行った後、21年度に第23章『ヤショーミトラ』の校訂梵文テキストと和訳を『南アジア古典学』第4号の論文第二部(「生きながら餓鬼の業苦を味わった比丘の話」)に発表した。単にSMRAMの23章の校定・和訳だけではなく、その章に相当する『アヴァダーナ・シャタカ』の第85章の和訳もあわせて行い、ネパールのアヴァダーナ・マーラー文献とその源泉のアヴァダーナ・シャタカとの内容の比較を行い、アヴァダーナ・マーラー文献の作者の製作上の意図を探った。〔→下記の雑誌論文⑥〕

②22年度にはSMRAMの第31章『商人』と第33章『餓鬼になった商人』の校定梵文と和訳を発表して、それら両者のテキストと『アヴァダーナ・シャタカ』第48章との比較研究を行い、『南アジア古典学』第5号の論文の第二部(79-125頁)に発表した。〔→下記の雑誌論文③〕

以上、4年間の研究期間でSMRAMについて既に3つの章(23, 31, 33章)の校定を雑誌に発表し、さらにいくつかの章の校定準備を行うことが出来た。

③国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけと今後の展望

ネパールのアヴァダーナ・マーラー文献の研究の中で、特にアヴァダーナ・シャタカ系列の詩形改稿アヴァダーナ・マーラー文献群の解明は、百年前のLéon Feerの研究以来、アヴァダーナ研究において最重要な問題であり、SMRAMのテキストの校定・研究はその文献群の研究を大きく進展させるものである。世界の学界でSMRAMのテキストが校定されたのは私の研究が初めてである。このアヴァダ

ーナ・マーラー文献研究は、中世ネパール文化の研究の出発点になるものである。

今後の展望としては、SMRAM第30章『生盲の女餓鬼』の校訂が研究期間内にすでに完成しているため、その校訂テキストと訳はRatnāvadānamālā 第16章『女餓鬼』の研究と一緒に、『南アジア古典学』第6号（2011年7月発行）に掲載する予定である。同論文ではまた同時に『アヴァダーナ・シャタカ』第44章の和訳と比較研究を行う予定である。『アヴァダーナ・シャタカ』の出来るだけ多くの章と、SMRAMの相当章との比較が、今後の研究のポイントとなる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11 件）

①岡野潔、「『大いなる帰滅の物語』最終章 — 第 6 章 1 節～4 節の翻訳研究 —」、『哲学年報』70 輯、1-41 頁。2011 年 3 月、査読無。

②岡野潔、「業縛の生死観との戦い — 大乘方便経はいかに釈尊の悪業の伝承を変えたか —」、『日本仏教学会年報』、75 巻、53-67 頁。2010 年 8 月、査読有。

③岡野潔、「Kalpalatā と Avadānamālā の研究 (1) — Vidura, Kaineyaka, Śreṣṭhipretibhūta の説話 —」、『南アジア古典学』5 号、51-127 頁。2010 年 7 月、査読有。

④岡野潔、「釈尊が前世で犯した殺人 --- 大乘方便経によるその解釈」、『哲学年報』69 輯、139-175 頁。2010 年 3 月、査読無。

（九州大学レポジトリ公開アドレス：
<http://hdl.handle.net/2324/16922>）

⑤岡野潔 (Kiyoshi Okano), "A Summary of the Mahāsaṃvartanikathā --- A Chronology of the Universe According to the Sāmmītiyas", in: Pāsādikadānam. Festschrift für Bhikkhu Pāsādika. Indica et Tibetica 52. Herausgegeben von Martin Straube, Roland Steiner, Jayandra Soni, Michael Hahn und Mitsuyo Demoto. Marburg. S. 323-342. 2009 年 8 月、査読無。

⑥岡野潔、「Avadānakalpalatā 94-97 章と SMRAM 23 章 --- Yaśomitra, Vyāghri, Hastin, Kacchapa の校訂・和訳 ---」、『南アジア古典学』4 号、95-177 頁。2009 年 7 月、査読有。

（九州大学レポジトリ公開アドレス：
<http://hdl.handle.net/2324/17841>）

⑦岡野潔、「生きものが再びいなくなる時代 --- 『大いなる帰滅の物語』第 5 章 1 節にみる正量部伝承 ---」、『哲学年報』68 輯、1-26 頁。2009 年 3 月、査読無。

（九州大学レポジトリ公開アドレス：
<http://hdl.handle.net/2324/13923>）

⑧岡野潔、「Avadānakalpalatā 55 章、91-92 章と Karmaśataka 125-126 話 --- Sarvaṃdada, Śibi, Maitrakanyaka の校訂・和訳 ---」、『南アジア古典学』3 号、57-155 頁。2008 年 7 月、査読有。

（九州大学レポジトリ公開アドレス：
<http://hdl.handle.net/2324/17842>）

⑨岡野潔、「やがて世界が終わる、世界が生まれ変わる --- 『大いなる帰滅の物語』第 4 章 2 節～4 節読解 ---」、『哲学年報』67 輯、1-54 頁。2008 年 3 月、査読無。

（九州大学レポジトリ公開アドレス：
<http://hdl.handle.net/2324/10299>）

⑩岡野潔、「弥勒下生経類と『大いなる帰滅の物語』の関係」、印度学宗教学会『論集』第34号、540-524頁 [(99)-(115)頁]。2007年12月（ただし実際の発行は2008年10月）、査読有。

⑪岡野潔、「Kṣemendra の Daśakarmaplutya-vadāna --- Bodhisattvāvadānakalpalatā 第 50 章の校訂と訳 --」、『南アジア古典学』2号、201-301頁。2007年7月、査読有。

（九州大学レポジトリ公開アドレス：
<http://hdl.handle.net/2324/17843>）

〔学会発表〕（計 1 件）

①岡野潔、「業繋の生死観からの解放 --- 仏陀の業報譚をめぐる部派仏教・大乘における攻防」、2009 年度日本佛教学会学術大会（立正大学）2009 年 9 月 17 日

〔その他〕

ホームページ等

<http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K00052/research.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡野 潔 (OKANO KIYOSHI)

九州大学人文科学研究院

研究者番号：80221844

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：